

### 「馬車馬のように働けばいい」

初めてエルサルバドル国際空港に降り立ったのは2000年4月だったので、約23年前になります。私は大学院卒業後、南米コロンビアで青年海外協力隊に参加し、体育隊員として3年過ごした後、首尾よくJICAエルサルバドル駐在員事務所（当時）の企画調査員（開発計画分野）として採用されました。（当時、採用されるとは思っていなかったので、JICA担当者から採用という連絡があった時には、えっ、本当に自分でいいのですか？と確認したほどです。）

私の場合、学卒直行での協力隊参加であった為、日本での就業経験はおろか、途上国支援、国際協力に精通するようなバックグラウンドを持ち合わせていなかった為、着任日が近づくにつれ、プレッシャーの高まりを感じるようになりました。ただ、当時のJICA本部の担当者から、「経験がないことは織り込み済みです。ただ、エルサルバドルに必要とされているのは、あなたの馬力です。馬車馬のような働きを期待しています。」という言葉に、体力には自信がある！と自分なりに納得し、新たに始まろうとしているエルサルバドルの生活に、心躍らせていました。

### 「フォーマルには程遠いスラング会話」

着任後、最初の業務はJICAが実施していたプロジェクト実施機関への挨拶、エルサルバドル外務省、厚生省、CENDEPESCA（水産総局）、CEPA（空港港湾委員会）、SICA-SG（中米統合機構事務局）等のプロジェクト担当者への着任の挨拶でした。2000年当時、日本政府は長年続いた内戦が終結したエルサルバドルに対する協力を強化していた時期であり、分野の異なる様々な大型プロジェクトが同時並行的に実施されていました。私にはプロジェクトに派遣されていた専門家や援助調整専門家の方々から担当分野における情報を入手し、次年度以降の新規ODA案件を政府機関関係者と共に形成することが求められていたことから、各省庁担当者とは顔見知りになっておく必要がありました。



そんな中、農牧省(MAG)への着任挨拶では、プロジェクト担当者だけではなく、ロベルト・インテリアーノの次官、更にはサルバドル・ウルティア大臣が揃って同席され、早速、次年度新規案件の話題になりました。当時の私のスペイン語は、協力隊レベルの会話力であったことから、会話の中に出てくる単語は初めて聞くものばかりで、良くわからないな、質問でもされたらどうしよう？焦っていた矢先、当時の上島駐在員事務所長から、突然、「新地さんの意見はどう？」って、突然のご指名（無茶振り!?）。頭の中は真っ白になり、

何を話したのか、全く記憶に残っていません。後日、懇親会の席で、ロベルト・インテリアーノ次官から「新地さんの話すスペイン語は時々フォーマルな場面には相応しくない表現が出てくるけど、概ね言いたいことは伝わっているよ。でもどこでスペイン語勉強したの?」と質問を受けました。自分のスペイン語は協力隊時代、配属先であった青少年更生施設（いわゆる少年院）の生徒達とのコミュニケーションがベースになっており、当時、当たり前に使っていた表現の多くがスラング的であったようです。（左端がロベルト・インテリアーノ元農牧次官）



農牧省挨拶のあと、幾つかの機関への挨拶、協議等のやりとりを一部始終見ていた所長から「スペイン語会話の個人レッスンを受けるといいよ。」というアドバイスを受けました。それから数日後、協力隊員のスペイン語レッスンを担当していたマリーナ先生を紹介され、個人レッスンをスタートして、約1年間続けた結果、当たり前だったコロンビア訛りのスラング会話から、下手ながらも、少しだけフォーマルな会話が話せるようになりました。（廃棄物分野のセミナーで挨拶した筆者）

#### 「2度のエルサルバドル赴任とその後のインフラ開発」

エルサルバドルには JICA 事務所の企画調査員として 2 度赴任し、都合 3 年の間生活しました。1 度目は 2000 年 4 月～2002 年 4 月までの 2 年間、事務所にて主に専門家プロジェクトに従事しました。更に 2 度目は 2003 年 4 月から 2004 年 4 月まで 1 年間でしたが、主に東部経済開発調査の現地コーディネーターとしてサンミゲル県、ラウニオン県といった東部地域に頻繁に通い東部地域における各種プロジェクトに携わる機会を得ました。

その当時に携わったインフラプロジェクトの一部は、その後、実施フェーズに移行しました。2004 年 3 月、任期終了と共にエルサルバドルを離れることになりましたが、2012 年頃からは、数年に一度ですが、時々訪問する機会に恵まれています。訪問する度にインフラ整備は着々と進んでいることを実感しています。最後に訪問したのは、コロナ禍前の 2020 年 2 月でしたが、視察したサンサルバドル市内の都市内交通整備（バスレーン整備）、ラリベルタと首都サンサルバドルを結ぶ道路整備は特に印象に残っています。次の訪問機会は未定ですが、もし機会があれば、東部の地方都市にも足を伸ばしてみたいと思っています。



BRT (バス・ラピッド・トランジット)



Carretera al Puerto de la Liberad (サンサルバドルーリベルタ港道路の拡張工事)



BRT プラットフォーム



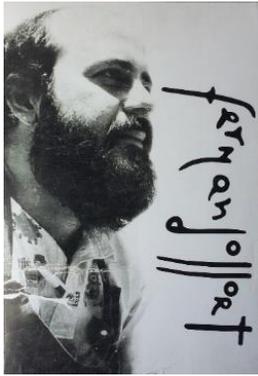
Carretera al Puerto de la Liberad (サンサルバドルーリベルタ港道路の拡張工事)

### 「Fernando Llorc との出会い」

フェルナンド・ジョルトはエルサルバドルの画家ですが、彼の作品の特徴は、神・人・鳥等、自然との調和をモチーフにした抽象画です。

以前、首都サンサルバドルのエスカロン地区に彼のアトリエがあり、その素朴な画風に惹かれ、フラッと立ち寄ったのが最初の出会いでした。3年間の任期中幾度となく通い、気に入った作品を見つけてはお土産用、そして自分用に少しずつ買い集めました。

残念ながら 2018 年 8 月、69 歳の生涯を閉じましたが、今も我が家の玄関には彼の作品を飾っています。



新地貴博（しんち たかひろ）氏

JICA の企画調査として 2 度の赴任を経験し、トータル 3 年間滞在した。現在は、開発コンサルタント会社の海外事業部に勤務し、主に海外インフラプロジェクトにおける契約管理及び海外拠点開発を担当している。今もエルサルバドルへは約 2 年に一度の頻度で訪れている。